

# 1 大問1の解答

## 問題

$a, b, p, q$  を定数とし、 $a > 0$  とする。関数  $f(x) = x^2 + ax + 2$  について、放物線  $y = f(x)$  の頂点の座標を  $(p, q)$  とする。また、関数  $g(x) = x^3 + ax^2 + bx - 2$  は  $x = p$  で極値  $q$  をとるとする。

(1)  $a, b, p, q$  の値を求めよ。

(2) 2 曲線  $y = f(x)$ 、 $y = g(x)$  の共有点のうちで、点  $(p, q)$  と異なる点の座標を求めよ。

## 解答

(1)

$f(x), g(x)$  の条件から「関数  $f(x), g(x)$  の共有点の座標の 1 つが  $(p, q)$  である」といえる。これを利用して定数の値を求める。

関数  $f(x)$  を 2 次関数の標準形にすると、

$$f(x) = x^2 + ax + 2 = \left(x + \frac{a}{2}\right)^2 - \frac{a^2}{4} + 2 \quad (1.1)$$

頂点は  $(p, q)$  なので、ここから

$$p = -\frac{a}{2}, \quad q = -\frac{a^2}{4} + 2 \quad (1.2)$$

また、 $g(x)$  が  $x = p$  で極値  $q$  をとることから、 $g'(p) = 0, g(p) = q$  であるといえる。 $g'(p)$  について、

$$g'(p) = 3p^2 + 2ap + b = 0 \quad b = -3p^2 - 2ap \quad (1.3)$$

$g(p) = p^3 + ap^2 + bp - 2 = q$  に (1.3) で得た  $b$  と (1.2) で得た  $p, q$  を代入すると、

$$\begin{aligned} \left(-\frac{a}{2}\right)^3 + a\left(-\frac{a}{2}\right)^2 + \left\{-3\left(-\frac{a}{2}\right)^2 - 2a\left(-\frac{a}{2}\right)\right\}\left(-\frac{a}{2}\right) - 2 &= -\frac{a^2}{4} + 2 \\ -\frac{a^3}{8} + \frac{a^3}{4} - \frac{a}{2}\left(-\frac{3}{4}a^2 + a^2\right) + \frac{a^2}{4} - 4 &= 0 \\ -\frac{a^3}{8} + \frac{a^3}{4} - \frac{a^3}{8} + \frac{a^2}{4} - 4 &= 0 \\ \frac{a^2}{4} - 4 &= 0 \\ a^2 - 16 &= 0 \end{aligned} \quad (1.4)$$

(1.4) 式を方程式とすると、解は  $a = \pm 4$  となる。しかし、 $a > 0$  であることから  $a = 4$  が定まる。 $a$  が定まった事で  $p, q$  も定まる。

$$p = -\frac{4}{2} = -2, \quad q = -\frac{4^2}{4} + 2 = -2 \quad (1.5)$$

最後に  $b$  の値は

$$b = -3p^2 - 2ap = -3(-2)^2 - 2 \cdot 4(-2) = -12 + 16 = 4 \quad (1.6)$$

以上より、 $a, b, p, q$  の値は

$$a = 4, \quad b = 4, \quad p = -2, \quad q = -2 \quad (1.7)$$

(2)

(1) から、 $f(x), g(x)$  は以下ようになる。

$$f(x) = x^2 + 4x + 2 \quad (1.8)$$

$$g(x) = x^3 + 4x^2 + 4x - 2 \quad (1.9)$$

$y = f(x)$ 、 $y = g(x)$  の共有点では  $f(x) = g(x)$  が成立するので、(1.8) 式と (1.9) 式から共有点上では次のような 3 次方程式となる。

$$x^3 + 3x^2 - 4 = 0 \quad (1.10)$$

(1) より共有点の1つは  $(-2, -2)$  である。このことから、 $c, d$  を定数としたとき、(1.10) 式は以下のような形に変形する事が出来る。

$$x^3 + 3x^2 - 4 = (x + 2)(x^2 + cx + d) \quad (1.11)$$

(1.11) 式を恒等式として  $c, d$  の値を求める。(1.11) 式の右辺を変形すると、

$$(x + 2)(x^2 + cx + d) = x^3 + (c + 2)x^2 + (2c + d)x + 2d \quad (1.12)$$

(1.12) の結果と、(1.11) 式の左辺を比較すると、

$$c = 1, d = -2 \quad (1.13)$$

となる。よって、3次方程式 (1.10) の左辺は

$$x^3 + 3x^2 - 4 = (x + 2)(x^2 + x - 2) = (x + 2)^2(x - 1) \quad (1.14)$$

以上から、もう一つの共有点の  $x$  座標値は  $x = 1$  であることがわかる。このとき、 $f(1) = g(1) = 7$  である。したがって、 $(-2, -2)$  と異なる点の座標は  $(1, 7)$  となる。

## 2 大問2の解答

### 問題

$a$  を正の数とし、曲線  $y = a \log x$  を  $C$  とする。曲線  $C$  上の点  $(a, \log a)$  における接線を  $l$  とする。ただし、対数は自然対数とする。

- (1)  $l$  の方程式を  $a$  を用いて表せ。
- (2)  $l$  と  $C$ 、および2直線  $x = 2$ 、 $x = 4$  で囲まれた部分の面積  $S(a)$  を求めよ。
- (3)  $S(a)$  が最小となるような  $a$  の値を求めよ。

### 解答

(1)

$y = f(x)$  とすると、

$$f'(x) = \frac{a}{x} \quad f'(a) = 1 \quad (2.1)$$

よって、 $(a, a \log a)$  における接線  $l$  の方程式は

$$y = f'(a)(x - a) + f(a) = x - a + a \log a \quad (2.2)$$

(2)

本来、このような問題では  $a$  の値により場合分けにより積分値を求めるべきである。しかし、接線  $l$  は曲線  $C$  の常に上の位置にあるため、 $a$  がどの位置にあっても同じ積分式となる。したがって、 $S(a)$  は、

$$\begin{aligned} S(a) &= \int_2^4 (x - a + a \log a - a \log x) dx = \left[ \frac{x^2}{2} - a(x \log |x| - x) + (-a + a \log a)x \right]_2^4 \\ &= (8 - 8a \log 2 + 4a \log a) - (2 - 2a \log 2 + 2a \log a) \\ &= -6a \log 2 + 2a \log a + 6 \end{aligned} \quad (2.3)$$

(3)

$S(a)$  について調べる。

$$S'(a) = -6 \log 2 + 2(\log a + 1) = 2 \log a - 6 \log 2 + 2 \quad (2.4)$$

$S'(a) = 0$  とすると

$$\begin{aligned} \log a &= 3 \log 2 - 1 \\ \log a &= \log 8 - \log e \\ \log a &= \log \frac{8}{e} \end{aligned}$$

底が等しいので、真数比較により  $a = \frac{8}{e}$  で、この時極値は  $-\frac{16}{e} + 6 (< 0)$  である。この  $a$  は正の値であり、以下の増減表から  $S(a)$  が最小値をとることから題意を満たす。

$a$	...	$\frac{8}{e}$	...
$S'(a)$	-	0	+
$S(a)$	↘	$-\frac{16}{e} + 6$	↗

したがって、 $S(a)$  を最小にする  $a$  の値は、 $a = \frac{8}{e}$  である。

### 3 大問3の解答

#### 問題

正の数からなる数列  $\{a_n\}$  が、次の条件を満たすとする。

$$a_1 = 5, \quad a_{n-1} = 3a_n - 2^n a_n a_{n-1} \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad (3.1)$$

- (1)  $b_n = \frac{3^n}{a_n}$  とおくと、 $b_{n-1} - b_n$  を  $n$  を用いて表せ。  
 (2) 数列  $\{a_n\}$  の一般項を求めよ。

#### 解答

(1)  
漸化式を変形すると、

$$\begin{aligned} a_{n-1} &= (3 - 2^n a_{n-1})a_n \\ a_n &= \frac{a_{n-1}}{3 - 2^n a_{n-1}} \\ \frac{1}{a_n} &= \frac{3 - 2^n a_{n-1}}{a_{n-1}} \\ \frac{1}{a_n} &= \frac{3}{a_{n-1}} - 2^n \end{aligned} \quad (3.2)$$

両辺に  $3^n$  を掛けると

$$\begin{aligned} \frac{3^n}{a_n} &= 9 \cdot \frac{3^{n-1}}{a_{n-1}} - 6^n \\ b_n &= 9b_{n-1} - 6^n \end{aligned} \quad (3.3)$$

(3.3) 式と、 $b_1 = \frac{3}{a_1} = \frac{3}{5}$  を基に数列  $\{b_n\}$  の一般項を求める。(3.3) 式を満たす1つの数列を、 $b_n = \alpha \cdot 6^n$  とおく。これを (3.3) 式に代入すると、

$$\begin{aligned} \alpha \cdot 6^n &= 9\alpha \cdot 6^{n-1} - 6^n \\ 6\alpha - 9\alpha &= -6 \\ \alpha &= 2 \end{aligned} \quad (3.4)$$

よって、

$$2 \cdot 6^n = 18 \cdot 6^{n-1} - 6^n \quad (3.5)$$

(3.3) 式から (3.5) 式を引くと、

$$\begin{aligned} b_n - 2 \cdot 6^n &= 9b_{n-1} - 18 \cdot 6^{n-1} \\ b_n - 2 \cdot 6^n &= 9(b_{n-1} - 2 \cdot 6^{n-1}) \end{aligned} \quad (3.6)$$

ここで

$$b_1 - 2 \cdot 6^1 = \left( \frac{3}{5} - 12 \right) = -\frac{57}{5} \quad (3.7)$$

数列  $\{b_n - 2 \cdot 6^n\}$  は、初項  $-\frac{57}{5}$ 、公比 9 の等比数列であるので

$$\begin{aligned} b_n - 2 \cdot 6^n &= -\frac{57}{5} \cdot 9^{n-1} \\ b_n &= 2 \cdot 6^n - \frac{57}{5} \cdot 9^{n-1} \end{aligned} \quad (3.8)$$

(3.8) 式から数列  $\{b_n\}$  の一般項が定まった。よって、 $b_{n-1} - b_n$  は、

$$\begin{aligned} b_{n-1} - b_n &= 2 \cdot 6^{n-1} - \frac{57}{5} \cdot 9^{n-2} - \left( 2 \cdot 6^n - \frac{57}{5} \cdot 9^{n-1} \right) = -5 \cdot 2 \cdot 6^{n-1} + 8 \cdot \frac{57}{5} \cdot 9^{n-2} \\ &= -5 \cdot 2^n \cdot 3^{n-1} + 2^3 \cdot \frac{19}{5} \cdot 3^{2n-3} = -2^3 \cdot 3^{n-1} \left( 5 \cdot 2^{n-3} - \frac{19}{5} \cdot 3^{n-2} \right) \\ &= \frac{-2^3 \cdot 3^{n-1} (25 \cdot 2^{n-3} - 19 \cdot 3^{n-2})}{5} \end{aligned} \quad (3.9)$$

(2)

(3.8) 式と、 $a_n = \frac{3^n}{b_n}$  から、数列  $\{a_n\}$  の一般項は、

$$a_n = \frac{3^n}{b_n} = \frac{5 \cdot 3^n}{10 \cdot 6^n - 57 \cdot 9^{n-1}} = \frac{5 \cdot 3^n}{10 \cdot 2^n \cdot 3^n - 19 \cdot 3^n \cdot 3^{n-1}} = \frac{5}{5 \cdot 2^{n+1} - 19 \cdot 3^{n-1}} \quad (3.10)$$

## 4 大問4の解答

### 問題

$t$  を正の数とする。平行四辺形 ABCD において、辺 AB を  $t:1$  に内分する点を E、辺 BC を  $3:1$  に内分する点を F とする。また、 $\overrightarrow{AB} = \vec{b}$ 、 $\overrightarrow{AD} = \vec{d}$  とする。

(1) ベクトル  $\overrightarrow{AE}$ 、 $\overrightarrow{DE}$  および  $\overrightarrow{EF}$  を  $t$ 、 $\vec{b}$ 、 $\vec{d}$  を用いて表せ。

(2)  $\vec{b}$  と  $\vec{d}$  のなす角が  $45^\circ$  で、 $|\vec{b}| = \sqrt{2}|\vec{d}|$  であるとする。 $\overrightarrow{DE} \perp \overrightarrow{EF}$  となるような  $t$  の値を求めよ。

### 解答

(1)

E は辺 AB を  $t:1$  に内分する点、F は辺 BC を  $3:1$  に内分する点である。また、平行四辺形の性質から、 $\overrightarrow{BC} = \overrightarrow{AD} = \vec{d}$  であるから、

$$\overrightarrow{AE} = \frac{t}{t+1}\overrightarrow{AB} = \frac{t}{t+1}\vec{b} \quad (4.1)$$

$$\overrightarrow{DE} = \overrightarrow{DA} + \overrightarrow{AE} = \overrightarrow{AE} - \overrightarrow{AD} = \frac{t}{t+1}\vec{b} - \vec{d} \quad (4.2)$$

$$\overrightarrow{EF} = \overrightarrow{EB} + \overrightarrow{BF} = \frac{1}{t+1}\overrightarrow{AB} + \frac{3}{4}\overrightarrow{BC} = \frac{1}{t+1}\vec{b} + \frac{3}{4}\vec{d} \quad (4.3)$$

(2)

$\vec{b}$  と  $\vec{d}$  のなす角が  $45^\circ$  なので、 $\vec{b}$  と  $\vec{d}$  の内積は

$$\vec{b} \cdot \vec{d} = |\vec{b}||\vec{d}|\cos 45^\circ = \sqrt{2}|\vec{d}|^2 \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} = |\vec{d}|^2 \quad (4.4)$$

$\overrightarrow{DE} \perp \overrightarrow{EF}$  なので、 $\overrightarrow{DE} \cdot \overrightarrow{EF} = 0$  が成り立つ。ここから  $t$  についての方程式を導く。左辺を展開すると、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{DE} \cdot \overrightarrow{EF} &= \left( \frac{t}{t+1}\vec{b} - \vec{d} \right) \left( \frac{1}{t+1}\vec{b} + \frac{3}{4}\vec{d} \right) \\ &= \frac{t}{(t+1)^2}|\vec{b}|^2 + \frac{3t-4}{4(t+1)}\vec{b} \cdot \vec{d} - \frac{3}{4}|\vec{d}|^2 \\ &= \left\{ \frac{2t}{(t+1)^2} + \frac{3t-4}{4(t+1)} - \frac{3}{4} \right\} |\vec{d}|^2 \end{aligned} \quad (4.5)$$

これより、求める  $t$  についての条件は、

$$\begin{aligned} \frac{2t}{(t+1)^2} + \frac{3t-4}{4(t+1)} - \frac{3}{4} &= 0 \\ 8t + (3t-4)(t+1) - 3(t+1)^2 &= 0 \\ 8t + (3t^2 - t - 4) - 3(t^2 + 2t + 1) &= 0 \\ t - 7 &= 0 \\ t &= 7 \end{aligned} \quad (4.6)$$

この  $t$  は正の数であり、題意を満たす。したがって、求める  $t$  の値は  $t=7$  である。

## 5 大問5の解答

問題

行列

$$A = \begin{pmatrix} a & -1 \\ 1 & a-2 \end{pmatrix}, P = \begin{pmatrix} p & q \\ r & s \end{pmatrix}, X = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -1 & -2 \end{pmatrix} \quad (5.1)$$

について、 $PX = A + X^{-1}AX$  が成り立つとする。ただし、 $a, p, q, r, s$  は実数とする。

(1)  $p, q, r, s$  をそれぞれ  $a$  を用いて表せ。

(2)  $(A+P)(A-P) = A^2 - P^2$  が成り立つような  $a$  の値を求めよ。

解答

(1)

$X$  は、2次平方行列が逆行列を持つ条件から  $1 \times (-2) - 1 \times (-1) = -1 \neq 0$  であるので逆行列が存在する。逆行列  $X^{-1}$  を求めると、

$$X^{-1} = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ -1 & -1 \end{pmatrix} \quad (5.2)$$

$X$  は逆行列を持つので、 $XX^{-1} = X^{-1}X = E$  ( $E$  は単位行列) が成立する。よって、条件式に右から  $X^{-1}$  を掛けて変形し成分ごとに計算すると

$$\begin{aligned} P &= AX^{-1} + X^{-1}A \\ &= \begin{pmatrix} 2a+1 & a+1 \\ -a+4 & -a+3 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 2a+1 & a-4 \\ -a-1 & -a+3 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 2(2a+1) & 2a-3 \\ -2a+3 & 2(-a+3) \end{pmatrix} \end{aligned} \quad (5.3)$$

よって、

$$p = 2(2a+1), \quad q = 2a-3, \quad r = -2a+3, \quad s = 2(-a+3) \quad (5.4)$$

(2)

(左辺)  $= (A+P)(A-P) = A^2 - AP + PA - P^2$  である。この式が右辺と等しくなるには、 $O$  を零行列とおくと以下の条件を満たせばよいことになる。

$$-AP + PA = O \quad (5.5)$$

(5.5) 式から  $a$  の値を求める。(5.5) 式の左辺を計算すると、

$$\begin{aligned} -AP + PA &= - \begin{pmatrix} a & -1 \\ 1 & a-2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2(2a+1) & 2a-3 \\ -2a+3 & 2(-a+3) \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 2(2a+1) & 2a-3 \\ -2a+3 & 2(-a+3) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a & -1 \\ 1 & a-2 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 0 & -10a+10 \\ -10a+10 & 0 \end{pmatrix} \end{aligned} \quad (5.6)$$

よって、ここから求める  $a$  についての条件は

$$-10a + 10 = 0 \quad a = 1 \quad (5.7)$$